視機能科学科　／　専門基礎科目群

授業科目

聴覚系構造・機能・病態

担当教員名	対象学年	1	対象学科	視機
佐藤　克郎	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎		◎	○	

授業の概要

聴覚系の構造・機能・病態について聴器の微細構造と巧妙な聴覚機構、そしてその障害としての難聴をめぐって概説する。聴覚器の構造および機能、感音器官の病態、　聴覚器官の病態について学び、伝音難聴、感音難聴、後迷路性難聴、中枢性聴覚障害（皮質性難聴）の病態を理解することを到達目標とする。

授業の目的

聴覚によるコミュニケーションとその障害につき理解して、臨床の場に応用できる知識を得る。

学習目標

1. 聴器の構造を説明できる。
2. 聴器の機能を説明できる。
3. 聴覚器官の病態を説明できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	聴器の構造：外耳、中耳	講義	佐藤　克郎
2	聴器の構造：内耳、聴覚伝導路、聴中枢	講義	佐藤　克郎
3	聴器の機能：集音機構、伝音機構	講義	佐藤　克郎
4	聴器の機能：感音機構	講義	佐藤　克郎
5	聴覚器官の病態：伝音難聴	講義	佐藤　克郎
6	聴覚器官の病態：感音難聴（内耳性難聴）	講義	佐藤　克郎
7	聴覚器官の病態：感音難聴（後迷路性難聴）	講義	佐藤　克郎
8	聴覚器官の病態：中枢性性難聴	講義	佐藤　克郎

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	言語聴覚士のための講義ノート　聴覚系耳科学―聴覚系の構造・機能・病態―	中野雄一	考古堂書店	2010年	2,000円	
参考書						
その他の資料						

評価方法

定期試験，小試験，提出物から評価する。

履修上の留意点

学習ノートは学問体系を知る上で重要であり、作成には工夫が必要である。

オフィスアワー・連絡先

katsuro-sato@nuhw.ac.jp